

「ヒッタイトの誕生と滅亡を考える」

幸地 楓

小さい頃からオリエン特急行という吹奏楽曲を聞いて育った私は、オリエン特という言葉にとってもなじみがあった。アナトリア高原を抜けた先にあるイスタンブールを、軽快に出発するオリエン特急行の様子が、この曲によく表れている。

そんな軽やかな印象とは対照的に、今から 3000 年ほど前、アナトリア高原でたくましく暮らしていたのがヒッタイト人である。彼らは、夏は非常に乾燥し、冬は厳しい寒さと多くの降雪に見舞われるこの高原を拠点に活動していた。製鉄技術を持っており、カデシュの戦いでは新王国時代のエジプトと和平条約を結んだ。しかし、海の民によって大きな被害を受け、滅亡してしまった。というのが有名な内容である。授業で初めてヒッタイトについて学んだ際、オリエン特の中でも高山地域に位置し、同時期のエジプトに比べて素朴な雰囲気 of ヒッタイトに惹かれた。そして、学んでいくにつれて 2 つの疑問を抱いた。

「なぜヒッタイト人はわざわざ山岳地帯に国を築いたのか。」

「なぜエジプトと互角に戦ったヒッタイト人が海の民によってたちまち滅んだのか。」

そして、これらを解決するべく、あらかじめ以下の仮説を立てた。

1. 気候の変化に伴って民族が移動し、アナトリア高原で食料生産が可能になったため、ヒッタイト人は山岳地帯に国を築いた。
2. カデシュの戦いの後に農民の生活がゆらぎ、最終的に防衛力が低下したことで、ヒッタイトは海の民の侵略によって滅んだ。
3. 気候の変化によって、ヒッタイト帝国内は食料難になり、海の民は移動した。その結果、ヒッタイトは海の民の侵略によって滅んだ。

本稿ではこれら 3 つの仮説を、より具体的に分析する。

1 つ目の仮説について、ヒッタイトの歴史はインド=ヨーロッパ語族がアナトリア高原まで南下し、そこに定住した人々により始まったとされているが、この移動の理由はまだ明らかになっていない。しかし、「ヒッタイトの都市周辺の調査では紀元前 16 世紀後半に長らく支配的だった針葉樹林が後退しブナ科植物が増加したことが判明している」(津本 2023: p. 240) という記述があり、この民族移動は地球全体の気温と植生の変化が主な原因ではないかと考える。ここで注目したいのが、ブナ科植物と小麦の生育条件である。ブナ科植物は気温 10°C から 30°C、小麦の開花温度は 10°C

から 32°Cであり、ほぼ一致している。さらに、小麦は収穫時期に乾燥気候であることが条件だが、アナトリア高原の夏の乾燥は小麦生産に適している。現在もトルコのコンヤ平原は小麦生産が盛んだが、その原点はこの頃の気候変動にあるといえるだろう。以上から、インド＝ヨーロッパ語族は気候の変化によってアナトリア高原に移動し、厳しい環境ではあるがこの地で小麦などの食料生産を行い、定住していったのではないかと考える。

2つ目の仮説について、ヒッタイトはカデシュの戦い以前から遠征をくりかえしており、民衆が戦いに不慣れであったことは考えにくい。しかし、エジプトの記述による軍勢の数は合計 4 万 7500 人であり当時の人々にとって未曾有の規模であった。ヒッタイト側の詳しい記録はないものの、繰り返される遠征と大規模なエジプトとの戦争によって農民は疲弊し、農業生産力は減少しただろう。そして、没落する農民が現れ、兵力の代わりに属国の人々が利用されたため、結果的に軍事力が低下したと予想する。このように軍事力が低下したことで防衛力も落ち、海の民の攻撃にヒッタイトが対抗できなかったのではないかと考える。

3つ目の仮説について、海の民がどのような人々なのかほとんどわかっていないが、あらゆる国に侵略したことは一種の民族移動と捉えることができる。2023 年の最新の研究で、アナトリア半島中部にあったヒッタイト帝国の中心地が紀元前 1198 年、前 1197 年、前 1196 年に大干ばつに見舞われていたことが明らかになった。これは青銅器時代の崩壊の理由を解明する大きな一歩であるとともに、気候変動を裏付ける理由の 1 つだろう。ヒッタイトは干ばつによる飢饉に見舞われている中で、海の民の侵略を受けそのまま滅亡したのではないかと考える。ヒッタイトだけでなく他の地域でもこのように気候の変化にともなう飢饉が発生し、海の民は新しい耕作地を求めてさまざまな国を侵略したのだろう。しかし、海の民は侵略地に定住しておらず、農耕目的の移動ではないことも考えられるため、この仮説には再考の余地がある。

また、この 2 つの仮説は相反するものではなく、2 つが組み合わさることでより複合的なヒッタイト滅亡の要因になったのではないかと考える。

以上 3 つが私の考える仮説である。仮説を考えるにあたり、世界史上の他の出来事や、地理的な側面をヒッタイトに応用していく過程はとても楽しく、充実した時間だった。いつかこの疑問を解き明かす瞬間が訪れることを願っている。

【参考文献】

大村幸弘・篠原千絵『ヒッタイトに魅せられて一考古学者に漫画家が質問!!』、山川

出版社、2022 年

津本英利『ヒッタイト帝国―「鉄の王国」の実像』（PHP 新書）、PHP 研究所、
2023 年

農林水産省(2010).「小麦」.農林水産省,(2024 年 10 月 2 日)

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/hozen_type/h_sehi_kizyun/pdf/ahata3.pdf

日本植物生理学会(2018).「みんなのひろば 植物 Q&A」.日本植物生理学会,(2024 年 10 月 2 日)

https://jspp.org/hiroba/q_and_a/detail.html?id=4256#:~:text=%E5%86%B7%E6%B8%A9%E5%B8%AF%E3%82%92%E4%BB%A3%E8%A1%A8%E3%81%99%E3%82%8B,%E6%9D%A1%E4%BB%B6%E3%81%A0%E3%81%A8%E6%80%9D%E3%81%84%E3%81%BE%E3%81%99%E3%80%82

ナショナルジオグラフィック日本版(2023).「ヒッタイト帝国滅亡の引き金か、3 年続いた大干ばつの証拠を発見」.ナショナルジオグラフィック,(2024 年 10 月 2 日) <https://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/news/23/021200075/>